

路面電車の観光利用増進に関する考察

林 泰三 主任研究員

1. 研究の背景および目的

近年、人と環境に優しい交通機関として、路面電車を再評価し、「地域住民の足」として積極的にこれを利活用していこうとする機運が見受けられる。しかしながら、モータリゼーション、少子化等の影響を受け、路面電車の輸送実績、運輸収入等は減少傾向にあり、営業損失を継続的に計上している路線も数多く存在するのが実情である。

他方、今日においては、環境負荷の低減という観点から、交通・運輸分野におけるCO₂排出量の縮減が至上命題となっている。また、我が国では、本格的な人口減少局面を迎えるとともに、高齢化が着実に進行し、自動車を自ら運転できない場合における移動手段的確保も必要不可欠となる。

このような観点から、人と環境に優しく、地域住民の貴重な足としての特性を有する路面電車を、将来にわたり、着実に維持・存続させていくことが至上命題となっている。かような考え方に基づき、人口減少局面においても、輸送需要の確保・維持を可能にする持続可能性の高い取り組みを展開していくことは喫緊の課題である。こうした中、各地で進められている観光振興に係る取り組みとシンクロナイズさせつつ、路面電車の観光利用の増進を図ることは極めて有用であると考えられる。

以上を踏まえ、本研究においては、我が国の路面電車が置かれている厳しい状況に注意を払いつつ、路面電車が有する観光交通としての機能に着目し、その利用増進に資する方策について考察・提言することを主たる目的としている。

2. 路面電車をめぐる現状及び展望

まずは、輸送密度、収支係数という視点から、路面電車各路線における実績の推移について概観する。しかるのちに、国立社会保障・人口問題研究所による人口推計に依拠しつつ、今後予想されている沿線人口の減少が路面電車の輸送実績に及ぼす負の影響につい

て議論する。

その上で、路面電車各路線を取り巻く状況の多様性に鑑み「営業損益の状況」「所在エリアにおける人口増減の見通し」という視点から、各路線の分類を試みる。

3. 路面電車の観光利用増進に係る取り組みをめぐるとの実態

これまで、関係各方面から多大なる御協力をいただきつつ、観光利用増進に係る取り組み事例について情報収集、分析を行ってきたところ、ここではこれら事例の概略について紹介する。

具体的には、実際に行われている取り組み事例を「沿線の観光スポットの魅力向上」「観光資源としての電車の活用」「観光企画乗車券の活用」をはじめとする数項目に分類するとともに、当該取り組みの有効性について評価・論評を加える。

また、複数路線を対象に、路面電車の観光利用の実態に関する現地聴き取り調査を実施しているところ、その狙いを明らかにするとともに、結果概要にも言及する。

4. 路面電車の観光利用増進のための具体的方法論（考察）

ここでは、上記取り組みをめぐるとの実態、現地聴き取り調査の結果等を踏まえつつ、路面電車の観光利用の増進を図るために有効と考えられる方法論について説明する。

具体的には、

- ・沿線における観光スポットの掘り起しを行い、エリア全体の魅力を高めるとともに、当該観光スポットへのアクセスに際し、路面電車が有用である点を積極的にPRしていくべきであること

- ・将来的に人口減少の割合が高いエリアにおいては、他地域からの観光客を積極的に呼び込み、彼らを沿線の観光スポットに効果的に誘導することを通じて路面電車利用を促進すべきであること

をはじめ、複数の留意点に言及する。